

愛媛 NEWS WEB

災害に備え連携や態勢づくりは

01月27日 19時23分



去年の西日本豪雨でボランティア活動に関わった人たちが、27日、松山市で、活動の方法や改善点を話し合い、参加者からは、常日ごろからの情報共有や、南海トラフ地震を見据えた連携態勢づくりが重要だといった意見が出されていました。

松山市で開かれた防災に関する集

会にはおよそ260人が参加しました。集会では、行政とNPO、ボランティアが、どのように連携する必要があるかというテーマでパネルディスカッションが行われ行政の担当者や、西日本豪雨でボランティア活動に関わった人などが意見を交わしました。この中で、参加者からは、「連携のためには、災害時だけでなく、平時からの情報共有が必要だ」という意見が出ていました。また、愛媛県の担当者は、西日本豪雨の際の課題として、「支援を受け入れた経験がなく、態勢の構築に苦労したため、南海トラフ地震を見据えた連携態勢づくりが必要だ」と話していました。西日本豪雨でみずからが被災したという宇和島市の高校3年生の男子生徒は、「西日本豪雨の際は、リアルタイムの情報がほとんど届かなかったので、NPOなどが連携して、対応してくことは重要だと感じました」と話していました。

以上